

# 地域の大切な絆

警報に気づかない／避難所で孤立例も

ドキュメンタリー作家で聴覚障害者の今村彩子監督（32）が22日、豊橋創造大学で講演を行い、東日本大震災で聴覚障害のある被災者の現状と今後の課題について話した。今村さんは地域の絆や手話技術を持つカウンセラーの育成の必要性を訴えた。同大学看護学科の救急救命法普及サークルTEAM QQ（平川久恵代表）主催。

豊橋創造大で今村彩子監督

いざという時、筆談でも

今村監督は名古屋市出身。生まれつき聴覚障害があり、豊橋ろくろ学校高等部卒業後、愛知教育大学教育学部へ。大学在籍中にカリフォルニア州立大学に留学し、映画やアメリカ手話などを学びながらドキュメンタリーを制作。現在は聴覚障害者向けのテレビCSチャンネル「目で



講演する今村彩子監督（豊橋創造大学で）

## 震災被災地の聴覚障害者の現状・課題語る

聴く「テレビ」の番組制作を手掛ける。

講演会には70人が参加。今村監督が宮城県岩沼市に住む聴覚障害者の避難生活を追ったドキュメンタリーを上映。被災者の証言をもとに「外出中に津波警報が出て、サイレンが聞こえないから警報に気づかない。地域の中に聴覚障害者がいる場合、いざというときには手話や筆談で教えてあげて」と地域の切実な現状を訴えた。

**医師らの手話技術  
取得必要性も訴え**

避難所では聴覚障害者が周りの人と会話できずに孤立したケースも紹介。「コミュニケーション不足でストレスがたまり、専門的なカウンセリングが必要でも、手話技術を持ったカウンセラーが少ない」と述べ、医者と関係者らの手話技術取得の必要性を説いた。

（斉藤理）